

平成 25 年度 関東甲信越診療放射線技師学術大会 参加報告

総務委員会 常務理事
芦葉 弘志

平成 25 年度 関東甲信越診療放射線技師学術大会は、平成 25 年 6 月 29 日から平成 25 年 6 月 30 日に横浜情報文化センター、ワークピア横浜、横浜市開港記念会館にて行われました。当日は、甲信越と関東の技師および業者を含め 500 名を超える参加がありました。横浜という交通の便に優れた立地、観光スポットが多いことも参加人数に影響していると思われます。

初めに、埼玉県診療放射線技師会の企画であります読影コーナーにて手伝いを行いました。実際に胸部 CR と MMG のテストを受験してみると、難しい問題もありましたが、高得点でした。時には、他の人が作成してくれたテストを受けることも勉強になると思いました。期間中は絶え間なく読影テストの参加者があり、関心の高さがうかがえました。

途中、神奈川県放射線管理士部会企画「医療被ばく相談 ～放射線診療を安心して受けて頂くために～」に参加いたしました。プログラム 1 では、聖マリアンナ医科大学付属病院の佐藤寛之先生が「放射線検査において患者が求めているものとは・・・」と題し、医療放射線の基礎についてお話しいただきました。プログラム 2 では、甲府共立病院の佐藤洋一先生による「被ばく相談に必要な基礎知識（影響と必要情報）」として放射線被ばくによる健康影響や女性の被ばくなど多岐にわたり説明をいただきました。プログラム 3 では、グループ実習として、各グループに分かれ与えられたテーマをもとにアドバイザーを中心に話し合われました。テーマはあえて抽象的な表現が与えられ、グループ員が背景や可能性を考えられる内容となっていました。例えば「交通事故でレントゲンをたくさん撮ったが、今後子供をつくるうえで影響はありますか？」(38 歳男性)。この場合腹部臓器破裂疑いがあれば CT も撮ったでしょうし、一般撮影も撮影したと考えられ、一番高い臓器線量で見積りながら、影響の出る可能性を探りました。遺伝的影響や不妊、白血病など、いずれも線量的にはリスクがおきる線量ではないので、対比して問題ないレベルと説明できるとしました。また行為の正当化や線量の最適化についても説明する事が必要との意見もありました。

Cypos の自由閲覧にて「当院における乳がん検診の現状と診療放射線技師の関わり」と題する自身の学術発表も行いました。質問もあり活発な発表ができました。

今回、このような画期的な学術大会に参加させていただきありがとうございました。